3 構成・要旨

学習目標
- 各段落の要点をつかむことで文章を意味段落で分け、全体の構成を捉えよう。
- 結論を述べている段落に着目し、要旨をまとめよう。

要点のまとめ

●構成

文章全体の構成の捉え方

❶各形式段落の要点を押さえ、内容的につながりのある段落のまとまり（＝**意味段落**）をつくる。

❷意味段落をもとに、文章全体の構成を捉える。

▪接続語に着目すると、各意味段落の役割をつかみやすい。

文章の構成の基本型

❶頭括型…最初に結論を述べる形式。結論（まとめ）→本論（説明）

❷尾括型…最後に結論をまとめる形式。本論（説明）→結論（まとめ）／序論（問題提起）→本論（説明）→結論（まとめ）

❸双括型…最初と最後で結論を述べる形式。結論→本論→結論

●要旨

要旨とは？

説明的文章において、その文章を通して筆者が述べようとしていることの中心的な内容。

要旨の捉え方

❶文章の初めや終わりに注目して結論を述べる段落（＝**中心段落**）を探す。

❷中心段落の中で、筆者の意見を述べている文（＝**中心文**）を探す。

▪「……べきだ。」「……と考える。」など、主張が表れた文（要旨がある可能性が高い文に注目）

▪問題提起の段落に対する答えを述べている文（要旨がある可能性が高い文に注目）

▪「ですから」「つまり」「このように」から始まる文（要旨がある可能性が高い文に注目）

❸中心文の内容をもとに、要旨をまとめる。

▪必要に応じて他の段落の内容も補足しながら、簡潔にまとめる。

確認問題

●○● 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

1 何人かの人たちの間で、話がたまたま庭園のことに及ぶと、どうやら落ち着く先はいつもきまっているようにみえる。西洋庭園は人工だが日本庭園は自然だということだ。

2 日本人だけの場合でも、外国人を交えての場合でも、この結論には変わりはないし、たまたま手にする新聞や雑誌の記事にも、いろいろな人が同じような思いを述べている。欧米で人工の極みをつくした西洋庭園にうんざりしたが、自然のままの日本庭園を見てほっとしたというのである。

3 だが①ほんとうにそうだろうか？

4 忙しさにかまけて庭園をゆっくり見ることも少ない、というより、も

(1) 話題 ——線①「ほんとうにそうだろうか？」とは、どういうことですか。次の文の□に当てはまる言葉を文章中から十五字程度で抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

▪ほんとうに、□なのだろうか？

□ ～ □

ポイント 直前にある逆接の接続語「だが」に着目し、それより前で述べた内容に対して「そうだろうか？」と疑問を投げかけていることをつかむ。

(2) 要点 ——線②「美しいといわれる庭園」とありますが、日本庭園の美しさを支えているものは何ですか。文章中から六字で二つ抜き出しなさい。

□
□

ともと文化的素養もほとんどないぼくは、ついそんなことを思ってしまうのである。

5 たしかに日本庭園は自然である。幾何学的な美を追求して整然と整えられた西洋庭園とはまったく異なって、自然のままに木の茂る築山があり、その手前の池には小さなせせらぎが流れこんでいる。その間の小道をたどっていけば、思い思いの姿をした灌木や茂みが心を和らげてくれる。その枝先にひそやかに咲いている花をみつけて心を打たれることもあろう。人々はそこに自然のさりげない美しさと落ち着きを感じる。

6 けれどふと気がつくと、築山をよぎってつづく土の小道の道ばたには、草など茂っていない。大木に覆われた暗い森ではなく、明るい林の庭なのに、茂みや灌木の間には、草一本生えていない。こういう明るい場所ならば、自然にいろいろな草が生えてくるはずだ。人はそれを雑草というが、そういう場所ではそれも自然の姿なのである。

7 ②美しいといわれる庭園では、そのような草は、すべてきれいに抜きとられているのだろう。あらためて見まわせば、木も灌木も勝手に生えたものではなく、造園家の配慮に従って、しかるべき位置に植えられたものである。それ以外の場所にだって、どこからか種子が飛んでくれば、思わぬ木や草が生えてくるはずなのに、そういうものはない。これらもまた、細心の手入れによって絶えず排除されているのである。

8 つまり日本庭園はけっして自然なのではない。みごとに自然を演出した人工なのである。その意味では人工の美といわれる西洋庭園と何一つ変わるところはないのではないか？

9 もちろん大きな日本庭園の奥のほうには、ほとんど自然のままの林が広がっている場合もある。けれどふつう讃えられている美しい日本庭園は、細心の注意を払って巧みに自然を模した人工の産物なのである。

〈日高敏隆「なぜ飼い犬に手をかまれるのか」より〉

ポイント「自然」に見える日本庭園の美しさを、見えないところで支えているものを、「……に従って」「……によって」という表現に着目して、読み取る。

(3) 構成　この文章の構成について、次の各問いに答えなさい。

1　この文章を四つの意味段落に分けたものとして適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　1 2 ― 3 4 ― 5 6 7 ― 8 9

イ　1 2 ― 3 4 5 ― 6 ― 7 8 9

ウ　1 2 3 ― 4 ― 5 6 7 ― 8 9

エ　1 2 3 ― 4 5 ― 6 ― 7 8 9　□

ポイント 各段落の要点や段落冒頭にある接続語を手がかりに前後の関係を捉え、内容的につながる意味段落のまとまりをつかむ。意味段落にはそれぞれ、前置き（導入）・問題提示・事実の例示・結論などの役割がある。

2　この文章の構成はどのような形式ですか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　頭括型　イ　尾括型　ウ　双括型　□

ポイント 結論が文章のどの部分におかれているかを確認し、文章構成の形式を判断する。

(4) 要旨　筆者がこの文章で述べたかったことを、「日本庭園は、……」に続くように三十字以内でまとめなさい。

日本庭園は、

ポイント (3) 2で捉えた結論部分に書かれている内容をもとに、要旨をまとめる。前の部分を要約する「つまり」や、強い主張を含むことの多い「……のである」に着目する。

演習問題

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

〔この文章は、日本語の力を向上させる方法についての考えを述べたものである。〕

1 日本語のコミュニケーション能力をつけるのになぜ外国語なのかと、*いぶかる向きもあろう。個々の事例は別として、*母語でも外国語でも、言語習得の方法論には共通する部分が多いと私は思っている。ゆえに、外国語を学ぶことは日本語力の向上に役立つと考える。

2 ①外国語の読み書きもさることながら、*高度の口頭表現能力を身につけている友人たちを見ていて気づくのは、ほぼ例外なく日本語のコミュニケーション能力にも長(た)けていることだ。外国語学習時の彼らに共通するのは、その言語を使えるようになりたいという熱意だった。その言語を使って人と話したい、本を読みたい、文を書きたい、ひとことで言えば他者と*コミュニケートしたい、そのために発音を覚え、文法を勉強し、語彙を増やし、文字を学んだ。ただし、そこまでならその言語に関する知識を得たというだけである。

3 コミュニケーション能力、とりわけ口頭によるコミュニケーションの能力を身につけるには、まず、母語話者の言語行動を観察する必要がある。挨拶一つとっても、たとえ完璧な発音を習得したとしても、それだけでは不十分だ。「こんにちは」や「さようなら」を言うときに、その言語では頭を下げるのか、相手の目を見るのか、微笑(ほほえ)むのか、合掌するのか、握手や抱擁など相手の体の一部と接触するのか、握手をするなら片手でするのか、両手でするのか、相手が子どもなら頭を撫(な)でるのか、頬をつねるのか、相手との物理的な距離はどのぐらいなのか、声の大きさ、高さはどうなのか、相手との上下、*親疎の関係によって言い方を変えなければいけないのか、といったことを観察するのである。

4 ある言語を学ぶということは、その言語をめぐる三つの要素を身につ

(1) 要点 ——線①「外国語の読み書きもさることながら、高度の口頭表現能力を身につけている友人たち」とありますが、彼らの外国語習得を後押ししたものは何だと筆者は考えていますか。次の文の□に当てはまる言葉を、文章中から十三字で抜き出しなさい。

▪その外国語を使って□という意志。

ポイント 外国語学習時の「友人たち」について説明した部分に着目する。彼らは何がしたいためにその外国語を使えるようになりたかったのかを捉える。

(2) 要点 3段落の中心文を抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

□～□

ポイント 中心文を捉えるには、段落の中から具体例や理由を挙げた部分を除き、筆者の意見を述べている部分に着目する。

(3) 要点・指示語 ——線②「一つの言語をほぼ習得した」とありますが、そのように言える状態になるためには、どのようなことが必要だと筆者は述べていますか。次の文の□A～Cに当てはまる言葉を、Aは六字、Bは二字、Cは十三字で文章中から抜き出しなさい。

▪ある言語について、その□Aだけではなく、□Bや□Cまで十分に身につけること。

A □

B □

C □

ポイント 「一つの言語をほぼ習得したと言うためには、……」という表現に注目して、言語習得のために何が必要だと筆者が考えているのかをつかむ。

けるということである。第一に、言語そのもの、すなわち文法、文字、語彙、発音といった言葉のしくみ、第二に、その言語が使用される環境において支配的である文化、そして第三に、その言語文化を背景として展開されるコミュニケーションのあり方である。母語であれ外国語であれ、②一つの言語をほぼ習得したと言うためには、これら三つの領域に分け入って研鑽を積み、習得状況に若干の偏りがあったとしても、ともかく三つすべてにおいて合格ラインを超えなければならない。

5　外国語を身につけた人というのは、これらの条件をクリアした人たちである。③他者の言語をマスターしたいと望む者は、いきおい他者の文化に敏感にならざるをえない。そしてその視点は、自らの言語に立ち返った際にも保たれる。言語的知識はもとより、言語コミュニケーションをめぐるさまざまな情報に対して関心を持つという態度である。その態度は、コミュニケートしようという意志から生まれる。コミュニケートしようという意志は相手に対する関心につながり、相手に対する関心は言語の周辺ルールへの配慮につながる。加えて、コミュニケートしようという意志を実行に移すために言語的知識が不可欠であることを認識し、言語そのものにも関心を抱き続ける。自らの使用する言語をさらに理解し、より適切に運用するためのセルフ・トレーニングを継続して行っていくことになる。

〈野口恵子「かなり気がかりな日本語」より〉

（注）いぶかる＝疑わしく思う。
向き＝ある考えをもっている人。
母語＝生まれてから最初に習い覚え、身につけた言語のこと。
さることながら＝もちろんのことではあるが。
コミュニケート＝意思や感情などを伝えること。
親疎＝親しいことと疎遠なこと。
研鑽＝深く究めること。

(4)　要点　――線③「他者の言語を……自らの言語に立ち返った際にも保たれる。」とありますが、他者の言語を学ぶことでどのようになると筆者は述べていますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　あらゆる言語について、新たな知識や情報を得ようとするようになる。
イ　外国語を学ぶ前に、母語を正確に学び直す必要を感じるようになる。
ウ　他者の文化と比較した結果、自国の文化の優れた点に気づくようになる。
エ　母語に対しても改めて関心を持ち、理解を深めようとするようになる。　□

ポイント　「自らの言語に立ち返った際にも保たれる」とはどういうことなのか、詳しく説明を加えている後の部分から読み取る。

(5)　構成　この文章を内容のうえから三つに分けるとすると、どのようになりますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　1 2 3 — 4 — 5　　イ　1 — 2 3 4 — 5
ウ　1 2 — 3 4 — 5　　エ　1 2 — 3 — 4 5　　□

ポイント　各形式段落の要点をつかんで意味段落をつくり、文章全体の構成を考える。

(6)　要旨　筆者がこの文章で述べたかったことを、五十字以内でまとめなさい。

ポイント　(5)で確認した文章全体の構成のうち、結論が書かれている段落に着目する。「……と私は思っている。」「……と考える。」などの文末表現に着目して、筆者の主張を読み取ってまとめる。

実戦問題

◆◇◆ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

〈愛知改〉

1 前*世紀の終わりごろから、近年へかけて、ヨーロッパの各所で、原始人類が住んでいた洞窟が、たくさん見つかった。そのうちには、洞窟内の壁に、いろいろな壁画を描いたものが、いくつかある。そのうちでも有名なのは、スペインの北部、アルタミラ洞窟の壁画である。これには、野生の牛、馬、猪(いのしし)、鹿(しか)などが、三十匹以上も描いてあって、じつにみごとなものである。ところが、二十数年前に、フランスの南部で、これ以上の壁画が見つかった。ラスコウ洞窟の壁画が、それである。これもほとんど野生の動物たち、すなわち彼らの狩猟の対象を描いたものである。この壁画は、旧石器時代の末期、マドレーヌ文化に属するもので、一万五千年ないし二万年くらい昔のものである。

2 絵の具は顔料、すなわち色のある岩石を粉にしたもので、古来の日本画の絵の具と、本質的にはおなじものである。黒、黄、赤、茶褐色(かっしょく)などを自由に使い、そのまぜあわせで、紫がかった色とか、その他いろいろ複雑な色もでている。もっとも長年月のうちに、顔料が緩慢な化学変化を受けて、色がますます複雑になった点もあろう。*筆致も素朴かつ*雄渾(ゆうこん)であって、形がよく野生動物の姿を写しているばかりでなく、その性格までもみごとに表現している。とても二万年も昔の原始人類が描いたものとは思われない。①このままニューヨークの展覧会に出しても、大賞をとりそうな絵である。

3 猿人(えんじん)から進化したばかりの原始人に、どうしてこういう芸術作品がつくれたか、いかにも不思議である。しかし考えてみると、②ほんとうの芸術というものは、こういうものかもしれない。彼らにとっては、野生動物は、命の綱であった。狩猟によって生活している彼らには、野生動物は、きわめて身近で、かつ大切なものであった。それらの動物の姿は、彼らの脳裏に、深く焼きつけられていたにちがいない。原始人たちは、世間の評判を顧慮する必要もなく、まして商業価値などには、まったく無縁であった。ただ自分の頭につよく残っているイメージを、無心で壁面に残しただけである。その動機は狩猟に関する*呪術めいたところにあったのであろう。そして純粋(じゅんすい)な喜びと、宗教的な*敬虔(けいけん)さとをもって、生活に密着した作品をつくり出したものと考えられている。そういうラスコウの壁画が、高度の芸術品であっても、ちっともおかしくはない。

4 ところでこの壁画には、もっとおもしろいことがある。それは、この原始人たちが、きわめて優れた科学の眼(め)をもっていたことである。その点は、疾走している動物の姿によく現れている。四脚の動物が、走るときに、どういう脚の運び方をするかという問題は、簡単そうに見えて、案外にむつかしい。瞬間写真や、高速度映画が使えるようになって、はじめてはっきりしたが、写真術の発達しなかったころは、よくわからなかった。とくに早駆け（ギャロップ）のときの脚の運び方は、人間の肉眼ではなかなかとらえられなかった。ところが、ラスコウ洞窟の原始人たちは、その姿をちゃんと見ていたのである。

5 しかしこれも考えようによっては、そう不思議ではないのかもしれない。彼らは、なにも精巧な狩猟道具をもっていたわけではない。しかし狩猟によって食物のほとんどを得ていた彼らは、どうしても、野生動物を捕らえなければならない。それができなかったら、死ぬよりしかたがない。それは本気などという生やさしいものではなく、絶体絶命の問題である。そういう立場にあった彼らは、動物の習性や、運動を、われわれの想像を絶した真剣さで、見つめていたにちがいない。人間の眼は、③そういう場合には、瞬間写真に匹敵する能力を発揮するのであろう。

6 科学の基礎は、自然の*精確な観察と、その把握とにある。そういう意味では、ラスコウの原始人たちは、非常に優れた科学者の素質をもっていたことになる。人類は、地球上にはじめて出現したときから、すでに芸術家であり、かつ科学者であったわけである。そして彼らの芸術も、科学も、ともに生活に密着したものであった。今日の科学は、あまりにも*分化し、かつ商業化している。その外観だけを見ると、科学は、一般の人々には、とうてい手のとどかない、はるか彼方(かなた)のもののように見える。しかし科学の本来の姿は、そういうものではない。そして生活にほんとうに役立つものは、この本来の姿の科学である。

〈中谷宇吉郎「科学以前の心」より〉

※一部省略等があります。

（注）前世紀＝ここでは、十九世紀を指す。なお、この文章は一九六一年に書かれた。
筆致＝文章や絵画などの書きぶり。　雄渾＝のびのびとして力強いこと。
呪術＝神秘的なものの力で目的を達成しようとする行為。
敬虔さ＝うやまう気持ちが深いこと。　精確な＝精密で確かなさま。
分化＝単純なものが内部で分かれ、複雑なものに発展・変化すること。

(1) 理由 ――線①「このままニューヨークの展覧会に出しても、大賞をとりそうな絵である。」とありますが、その理由として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　野生動物の姿だけでなく、その性格まで力強く巧みに描いているから。
イ　絵の具の化学変化で、鮮やかな色が出ることを計算して描いているから。
ウ　日本画とおなじ絵の具を用いて、複雑な構図で描かれた大作であるから。
エ　二万年も昔の原始人類には、絵を描くこと自体が難しいことであるから。

(2) 要点 ――線②「ほんとうの芸術」とありますが、その内容を説明した次の文の□に当てはまる言葉を、3段落から五字で抜き出しなさい。

▪ラスコウの壁画が身近で大切なものを無心に描いているように、真の芸術とは、□や商業的な価値とは無縁のものである。

(3) 指示語 ――線③「そういう場合」とありますが、その内容として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　動物の動きを見つめる場合。
イ　精巧な狩猟道具がある場合。
ウ　自分の生死にかかわる場合。
エ　動物の姿を壁画にする場合。

(4) ✪要旨　筆者は6段落で、科学の本来の姿について述べています。それを要約して、三十字以上四十字以内で書きなさい。ただし、「基礎」「密着」という言葉を使って、「本来の姿の科学とは、……」に続くように書きなさい。二つの言葉はどのような順序で使ってもかまいません。

本来の姿の科学とは、

30

(5) ✪構成　この文章を、内容のうえから三つに分けるとすると、どのような分け方になりますか。「／」を二つ使って区切りなさい。

1　2　3　4　5　6

(6) 文章の把握　文章中で述べられていることとして正しいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　旧石器時代には狩猟の道具に加えて、絵を描く精巧な道具があった。
イ　野生動物は、狩猟生活を送る原始人にとって常に身近な敵であった。
ウ　アルタミラの壁画は、ラスコウの壁画に比べてはるかに優れていた。
エ　ラスコウの原始人は、芸術と科学の両面で優れた資質をもっていた。

ポイント

(4)「科学の本来の姿」についての筆者の考えをまとめるのだから、〝科学とはどういうものか〟を述べている部分を探す。「科学の基礎は、……にある。」「芸術も、科学も、……であった。」「……この本来の姿の科学である。」などに着目する。

(5) 各段落の要点をつかみ、意味段落のまとまりに分ける。4段落冒頭に転換の接続語「ところで」があることも手がかりとなる。